

科目名	看護のための物理学		時期		時間	単位
担当教員	越後 弥大		1年次	前期	30時間	1単位
科目設定理由	最近の医療現場は、技術革新に伴ってより多くの物理学的要素を必要とする状況に変化している。また、看護学の分野でも根拠のある看護の追求を前面に据えた教育が求められている。そこで、科学的根拠に基づいた安全・安楽な看護技術の提供に不可欠である物理学の基礎と看護実践との関連を学ぶため当該科目を設定した。					
学習目標	1 対象にとってより快適な療養環境に必要な物理学的視点を理解する 2 看護師にとって質の高い看護実践に必要な物理学的視点を理解する					
授 業 計 画						
回数	項目	内 容				備 考
1~2	力のモーメント・てこの原理	1 力のモーメント 2 てこの原理 3 筋肉の張力と関節にはたらく力 4 腰にかかる力				講義
3~4	看護ボディメカニクスの物理	1 患者を動かす方法				講義
5~6	身近な圧力	1 圧力とは 2 圧力変化による人間への影響				講義
7~8	吸引器と吸引の物理	1 呼吸運動のメカニズム 2 吸引（ドレナージ） 3 サイフォン				講義
9~10	点滴静脈内注射の物理	1 点滴静脈内注射のセッティング 2 流量の調節 3 バッグの高さ				講義
11	循環器の物理	1 血液循環と血圧 2 血圧の重力による影響				講義
12	感覚器の物理	1 感覚 2 聴覚 3 視覚				講義
13	放射線の特性と基礎知識	1 電磁波 2 X線 3 放射線防御 4 放射線同位元素 5 放射線元素の崩壊と基礎知識				講義
14	体温制御の物理	1 体温調節				講義
15	試験（90分）					
使用テキスト	看護学生のための物理学		佐藤 和良		医学書院	
	[完全版]ベッドサイドを科学する：看護に生かす物理学		平田 雅子		学研メディカル秀潤社	
参考図書・資料等						
評価方法	筆記試験					

科目名	論理的思考	時期		時間	単位
担当教員	鯨井 綾希	1年次	前期	30時間	1単位
科目設定理由	医療の高度化に伴い、看護師には問題発見能力や問題解決能力が求められている。それらの能力には、論理的な思考とそれに基づく言語表現および言語理解の力が不可欠である。そこで、論理的な思考に基づく客観的なものの見方・表現力・伝達力を学び、医療における問題発見能力や問題解決能力につなげていくため、当該科目を設定した。				
学習目標	論理・思考・言語の関係を学び、論理的に思考する能力・適切に表現する能力を養う				
授 業 計 画					
回数	項目	内容			テキスト
1	この授業で何を学ぶか	1 論理的思考とは何かを知る 2 課題の条件を確認する			
2	相手のことを考える 1	1 相手によって言葉を使い分ける 2 いろいろな立場を考慮に入れる			第1章
3	相手のことを考える 2	1 具体的状況での対処法を考える			第1章
4	言いたいことを整理する 1	1 思いつくままの文章を作る 2 煩雑な文章を整える			第3章
5	言いたいことを整理する 2	1 話題ごとにまとめる方法を知る 2 整理された文章を作る			第3章
6	きちんとつなげる	1 接続詞の使い分けを知る			第4章
7	文章の幹を捉える 1	1 文章の中心と周辺を見分ける			第5章
8	文章の幹を捉える 2	1 要約の方法を知る 2 要約の練習をする			第5章
9	事実なのか、考えなのか 1	1 事実・推測・意見の違いを知る 2 事実の多面性を考慮する			第2章
10	事実なのか、考えなのか 2	1 異なる見解の人を説得する 2 説得の内容を検討する			第2章
11	そう主張する根拠は何か 1	1 理由・原因と根拠の違いを知る 2 根拠を示す必要性を考える			第6章
12	そう主張する根拠は何か 2	1 良い根拠と悪い根拠を見分ける			第6章
13	的確な質問をする	1 質問の練習をする意味を知る 2 質問の仕方を考える			第7章
14	反論する	1 的確な反論を組み立てる			第8章
15	この授業で何を学んだか	1 学んだことを振り返る 2 論理的思考を実践する			
使用テキスト	大人のための国語ゼミ	野矢 茂樹		山川出版社	
参考図書・資料等	論理的に解く力をつけよう	徳田 雄洋		岩波ジュニア新書	
	病院の言葉を分かりやすく —工夫の提案—	国立国語研究所 「病院の言葉」委員会		勁草書房	
評価方法	授業中の課題30点、中間レポート20点、期末レポート50点(学習内容の定着度を測る)				

科目名	情報科学	時期		時間	単位
担当教員	坂口 淳	1年次	後期	15時間	1単位
科目設定理由	最近の医療の現場では、情報システムの導入が行われコンピュータを操作・処理する能力が必須になっている。そこで、情報処理やコンピュータのハード・ソフト、ネットワーク等の基本的な概念を学び、基本的技術を修得するため当該科目を設定した。				
学習目標	情報と情報処理の基礎概念、コンピュータの基礎としてのハード・ソフトの概念を学習し、Windowsなどパソコンの基本操作、アプリケーションソフトの仕方を修得する				
授 業 計 画					
回数	項目	内 容			備 考
1	情報科学とは	1	インターネット、コンピュータ、情報末端の使用方法		講義
		2	情報化社会における諸課題、情報セキュリティ		
2	コンピュータによる文書作成方法	1	コンピュータを用いた文書の作成方法		演習
3~6	表計算ソフトの利用方法	1	表計算ソフトを用いた表とグラフの作成方法および表計算機能（関数の使い方）		演習
7~8	プレゼンテーションツールの使い方	1	プレゼンテーションツール（Powerpoint）の使い方		演習
使用テキスト	授業中に毎回プリントを配布する				
参考図書・資料等					
評価方法	平素の授業状況の取り組みと演習課題を総合的に判断して行う				

科目名	看護情報学		時期		時間	単位
担当教員	専任教員・非常勤講師		1年次	後期	15時間	1単位
科目設定理由	最近の医療現場では、電子記録媒体の利用・応用が進んでいる。そこで、医療現場におけるコンピュータシステムを理解し活用していく必要がある。また、看護の質の向上に向けての研究活動における情報分析処理能力を身につけるため当該科目を設定した。					
学習目標	1 情報処理の基礎を学び、看護研究におけるコンピュータ活用方法を修得する 2 病院における情報システムについて学ぶ					
授 業 計 画						
回数	項目	内 容			備 考	
1~4	看護研究と情報システム	1 文献とは、文献検索の方法 2 文献検索の実際 3 統計の基礎 4 プレゼンテーション技法			講義 (専任教員)	
5	病院情報システム	1 医療における情報システムと電子カルテ 2 安全管理と情報、データセキュリティ 3 地域包括医療システムと情報システム			講義 (非常勤講師)	
6	看護記録と情報システム	1 看護におけるデータ、情報、知識と情報システム 2 看護における診断・介入・成果とその記録方法 3 看護の場面におけるコンピュータの利用、システム化			講義 (非常勤講師)	
7	看護と情報に関する倫理	1 医療倫理の原則と倫理的な問題 2 個人情報および医療従事者の法的守秘義務、看護記録と倫理			講義 (非常勤講師)	
8	終験 (45分)					
使用テキスト	系統看護学講座 別巻 看護研究		坂下 玲子他		医学書院	
	系統看護学講座 別巻 看護情報学		中山 和弘他		医学書院	
参考図書・資料等						
評価方法	筆記試験、課題レポート					

科目名	生活科学		時期		時間	単位
担当教員	坂口 淳		1年次	後期	30時間	1単位
科目設定理由	看護の目的はあらゆる健康レベルにある対象に対し、より健康に日常生活を営めるように援助することである。そのため、看護の対象である人間の健康を維持する生活をより深く理解することが必要である。そこで、生活者の視点から日常生活の営みを科学的に分析・整理する能力を養うため当該科目を設定した。					
学習目標	看護職者として大きく変化している現代社会を正しく捉える能力を養い、患者や地域住民の生活・暮らしについて理解し、健康な地域づくりについて修得する					
授 業 計 画						
回数	項目	内 容			備 考	
1	ガイダンス 看護と生活	1 私たちの生活の現状について探り、生活上の諸問題について学習する			講義	
2	個人の生活の理解とQOL	1 個人の生活について学習し、さらに生活の質（クオリティ・オブ・ライフ：QOL）の考え方について学習する			講義	
3	社会的な健康	1 WHOの健康の定義について学習し、マズローのニードの5段階とエリクソンの発達課題の中から社会的に良好な状態について考える			講義	
4	地域社会とコミュニティ形成	1 地域と個人のつながりについて考え、コミュニティ政策や近隣住区論などのコミュニティ形成に関する基礎知識を習得する			講義	
5	生命倫理と科学コミュニケーション	1 看護職者は最先端医療技術に関わる機会が多い。患者に対して医療技術についてどのようなコミュニケーションをとるべきなのか学習する			講義	
6~7	バリアフリーとユニバーサルデザイン	1 バリアフリー、ユニバーサルデザインの概念について学習する			講義	
8	災害と避難	1 火災時などの病院施設における避難誘導について学習する			講義	
9	車椅子体験	1 体育館で車椅子を使った避難誘導に関する体験活動			演習	
10~13	福祉まちづくりに関するグループワーク	1 福祉まちづくりについて学習する。グループワークで十日町市のまちづくりについて考える			演習	
14	グループワーク発表	1 発表会				
15	試験（90分）	まとめ				
使用テキスト	授業中に毎回プリントを配布する					
参考図書・資料等						
評価方法	平素の授業状況と定期的に提出を求める課題レポート等の取り組み状況について総合的に判断して行う					

科目名	社会学		時期		時間	単位
担当教員	春日 清孝		1年次	前期	30時間	1単位
科目設定理由	看護の対象である人間は、身体的・精神的・社会的側面をもつ統合体である。社会学は、社会現象の実態や現象の起こる原因に関するメカニズムを解明するための学問であり、看護は人と社会の関係に大きく関連する専門的な営みである。そこで、個人が所属する社会について学び、社会的側面から人間理解を深める力を養うため当該科目を設定した。					
学習目標	1 日本の家族の現状について基礎的な知識を身につける 2 家族をとりまく社会の仕組みと人間関係のありかたについて、社会的なもの見方と知識を身につける					
授 業 計 画						
回数	項目	内 容			備 考	
1	社会学ガイダンス	社会学の基本的視点			講義	
2	近代家族の登場	「近代家族」の登場と変遷について			講義	
3	近代家族の問題類型	近代家族が抱える問題の類型と特徴について			講義	
4	近代家族とアイデンティティ	ファミリーアイデンティティの概念について			講義	
5	近代家族の変化	近代家族と恋愛観の変遷について			講義	
6	家族責任とジェンダー	近代家族で発生する家族責任とジェンダーの関係			講義	
7	家事労働と感情労働	近代家族における家事労働と感情労働の位置付け			講義	
8	近代家族の諸問題1	社会的ひきこもりについて			講義	
9	近代家族の諸問題2	もう一つの家族—里親制度について—			講義	
10	近代家族の諸問題3	近代家族と児童養護問題			講義	
11	近代家族の諸問題4	近代家族と愛着関係			講義	
12	ペットは「家族」か？	近代家族とペットの関係			講義	
13	学歴と愛情	「愛情表現」としての学歴の形成と教育投資			講義	
14	近代家族のこれから	少子高齢化社会と近代家族の行方			講義	
15	試験 (90分)					
使用テキスト	社会のセキュリティを生きる—「安全」「安心」と「幸福」との関係—			春日 清孝 他		学文社
参考図書・資料等	参考資料は授業で配布します。					
評価方法	筆記試験					

科目名	地域の人々とのふれあい	時期		時間	単位
担当教員	専任教員、非常勤講師	1年次	前期 後期	30時間	2単位
科目設定理由	新潟県においては少子高齢化や過疎化が進み、越後妻有地域においても同様な状況であり、地域運営の困難化や文化的背景もありコミュニティーの弱体化が問題視されている。しかし、この地域ではコミュニティーの強さ、人々の自助・互助が発達し、四季折々のイベントが開催され、地元住民が運営に関わるなど生活と芸術が調和している。看護の実践においては、対象の暮らしを理解することが必要である。そこで、この地域の自然・社会・文化的環境や人々の生活の営みを知り、人々とふれあうことで人間性と「地域愛」を育み、今後の看護師像の基盤作りとして当該科目を設定した。				
学習目標	1 越後妻有地域の歴史・自然・文化・民俗を理解する 2 地域の人々とのふれあいを通して、地域の魅力を発見する 3 地域の人々の生活を理解することの必要性に気づく				
授 業 計 画					
回数	項目	内 容			備 考
1～4	越後妻有地域の歴史・文化	1 十日町地方の歴史			講義 ・演習 十日町市博物館
		2 雪と織物と信濃川 3 笹山遺跡出土品 (火焰型土器など)			
5～10	地域の魅力発見	1 津南の歴史			農と縄文の体験実習館 なじよもん
		2 自然・文化 (ジオパークなど)			
		3 民俗			
11～12	フィードバック	1 地域の人々との語らい、生活体験を通して学んだこと、後期に向けた自己の課題の明確化			演習
13～14	学びの発表会準備	1 発表原稿作成 2 役割準備 3 リハーサル			演習
15	学びの発表会	1 地域の人々とのふれあいを通して感じたこと、学んだことについてプレゼンテーション			演習
使用テキスト	ふるさと教材「ふるさと十日町～魅力・誇り・宝もの～」	十日町市教育委員会	十日町市教育委員会		
	津南学叢書 第十六輯 アンギン技術伝承の軌跡	津南町教育委員会	津南町教育委員会		
参考図書・資料等					
評価方法	課題レポート、授業への取り組み姿勢、プレゼンテーション等から総合的に評価する				

科目名	人間関係論		時期		時間	単位
担当教員	松井 賢二・専任教員		1年次	前期	30時間	1単位
科目設定理由	多様化する社会の中で、看護の対象となる人がもつ価値観や期待を理解し、尊重することがますます重要になってきている。それと同時に、看護の実践においては、対象との関係はもちろんのこと、多職種と密接に連携していくことが不可欠である。いずれの場面においても、相手の思いや考え、期待などを理解するとともに、専門職として必要な情報提供や説明を行い、多職種と協働して看護を提供していくための合意と人間関係を築いていくための態度や能力を養うため当該科目を設定した。					
学習目標	1 他者に関心を持ち、他者を尊重したコミュニケーションができる 2 人間関係の基礎を理解する 3 カウンセリングやコーチング等の技法が習得できる					
授 業 計 画						
回数	項目	内 容			備 考	
1~4	関係づくり	1 自己紹介 2 クラスメイトとのコミュニケーション 3 レクリエーション			演習 (専任教員)	
5	人間関係の中の自己と他者	1 人間関係論とは 2 自己認知 3 対人認知			講義・演習	
6	対人関係と役割	1 対人関係の成立 2 対人関係の維持と崩壊 3 対人葛藤と対処 4 社会的役割			講義・演習	
7	態度と対人行動	1 態度と態度変化 2 説得力コミュニケーション 3 攻撃 4 援助			講義・演習	
8	集団と個人	1 集団の特性 2 集団での課題遂行 3 集団での問題解決と意思決定			講義・演習	
9~10	コミュニケーション	1 コミュニケーションとは 2 対人コミュニケーション 3 マスコミュニケーション 4 ICTの発達とコミュニケーション			講義・演習	
11~12	カウンセリングと心理療法	1 カウンセリング・心理療法の理論とスキル 2 看護への応用			講義・演習	
13~14	コーチングとアサーティブ・コミュニケーション	1 コーチングの理論とスキル 2 アサーションの理論とスキル 3 看護への応用			講義・演習	
15	試験 (90分)	まとめ				
使用テキスト	系統看護学講座 基礎分野 人間関係論		石川 ひろの 他		医学書院	
参考図書・資料等						
評価方法	筆記試験、レポート等					

科目名	教育学	時期		時間	単位
担当教員	大前 敦巳	1年次	前期	30時間	1単位
科目設定理由	看護師は、対象となる人々に対して望ましい姿に変化させるため、心身両面にわたって意図的・計画的に働きかける教育の担い手となる役割がある。そこで、教育に関する理念や理論、教育の現状や課題等の教育学の概要を学び、看護の実践に活かすことが必要である。さらに、専門職としての自ら成長や意味を考えられることを目的に当該科目を設定した。				
学習目標	1 教育に関する基礎的な概念を理解する 2 教育の対象者への関わり方を理解する 3 発達と教育の関係を理解する 4 専門職としての自らの成長、意味を考える				
授 業 計 画					
回数	項目	内容			備考
1	オリエンテーション 社会の中の看護と教育	第1部 第1章			講義・演習
2	教育とはなにかー「教育の概念」	第1部 第2章			講義・演習
3	教育の対象ー子ども観と発達	第1部 第3章			講義・演習
4	教育の組織化ー学校	第1部 第5章			講義・演習
5	教授一人を教えるということ	第2部 第2章			講義・演習
6	訓育ー他者とのかかわりを導く	第2部 第2章			講義・演習
	養護ー教育の受け手を見まもる	第2部 第3章			
7	発達ー教育を受けて成長する	第2部 第4章			講義・演習
8	学びの場ー学校と家庭	第3部 第1章			講義・演習
9	教育の担い手ー専門性と専門職性	第3部 第4章			講義・演習
10	教育の場をつくるしくみ	第3部 第5章			講義・演習
11	キャリア教育（専門教育）	第4部 第1章			講義・演習
12	ジェンダーとセクシュアリティ	第4部 第2章			講義・演習
	特別ニーズ教育・インクルーシブ教育	第4部 第3章			
13	生涯学習	第4部 第4章			講義・演習
14	シティズンシップ教育	第4部 第5章			講義・演習
15	試験（90分）				
使用テキスト	系統看護学講座 基礎分野 教育学	木村 元		医学書院	
参考図書・資料等	その都度、提示・紹介する、必要に応じてビデオ教材の使用				
評価方法	毎回のワークシートの提出とプレゼンテーション40%：講義ごとの出席と理解度を評価する。 試験60%：期末試験として、目標達成度を最終的に評価する。				

科目名	心理学	時期		時間	単位
担当教員	加藤 哲文	1年次	前期	30時間	1単位
科目設定理由	看護の対象である人間は、身体的・精神的・社会的側面をもつ統合体であり、看護では対象の心理を理解することが大切である。しかし、対象の話を傾聴し、対象の心理を受け入れ共感するという姿勢で看護を実践することは難しい。そのためには、心理学を学ぶことにより対象の心理だけでなく自分自身を理解することが重要となる。そこで、人間の心理や行動の基礎にある原理を学び、人間に対する理解を深めるとともに、自己を客観的に分析できる能力を養うため当該科目を設定した。				
学習目標	1 心理学について関心を高める 2 心理学の基礎的知識を得る 3 心理学的視点から自己を理解する				
授 業 計 画					
回数	項目	内容			備考
1	心理学とは	1 心理学の研究対象、歴史、研究方法			講義
2	感覚と知覚	1 感覚・知覚のしくみとはたらき			講義
3	記憶	1 記憶のメカニズム 2 感覚記憶・短期記憶と作業記憶 3 長期記憶と忘却			講義
4	思考、言語、知能	1 思考の定義・分類、問題解決、推論 2 言語の障害と検査 3 知能検査と知能障害			講義
5	学習	1 古典的条件づけ 2 オペラント条件づけと学習の理論 3 社会的学習と効果的な学習方法			講義
6	感情と動機づけ	1 感情のメカニズム 2 動機づけの理論			講義
7	性格とパーソナリティ	1 性格の理論 2 性格の測定			講義
8	社会と集団	1 社会的認知 2 態度と説得的コミュニケーション 3 対人関係と対人魅力 4 集団とリーダーシップ			講義
9～10	発達	1 発達の段階と課題 2 発達の要因 3 発達の各段階の特徴			講義
11	臨床心理	1 心の適応と不適応、心理療法			講義
12	医療・看護と心理学	1 患者の心理、医療職者の心のケア			講義
13	面接の技法	1 患者とのコミュニケーション			講義
14	カウンセリング	1 カウンセリングと心理療法			講義
15	試験 (90分)				
使用テキスト	系統看護学講座 基礎分野 心理学	山村 豊		医学書院	
	看護学生のための心理学	長田 久雄		医学書院	
参考図書・資料等	必要に応じて提示・配布する				
評価方法	筆記試験				

科目名	医療倫理		時期		時間	単位
担当教員	宮坂 道夫・秋山 政人・有森 直子 坂井 さゆり・柏木 夕香		2年次	前期	30時間	1単位
科目設定理由	今日、社会の変化や医療技術の発達、人々の価値観の多様化に伴い医療倫理の問題は保健医療の全般に生じており、専門職としての看護師には高い倫理観をもつことが必要かつ期待されている。倫理とは、より質の高い看護を提供するための看護実践の中心となるものである。そこで、医療現場における諸問題の特徴や倫理に関する基本的考え方を学び、倫理的課題に対する方法を知ることが必要である。そして、将来を担う医療従事者として、倫理的思考に基づき責任ある行動ができるよう倫理的感受性を養うため当該科目を設定した。					
学習目標	1 医療倫理の基本原則を理解する 2 看護倫理を学ぶことの意義がわかる 3 看護の現場にある倫理的課題に気づく 4 看護の現場にある倫理的課題を分析・解決するための方法を理解する					
授 業 計 画						
回数	項目	内 容				備 考
1~2	倫理学の基本的な考え方と看護倫理について基礎知識	1 倫理の考え方と看護倫理を学ぶ意義 2 生命倫理・看護倫理の歴史 3 倫理理論 4 他者理解と対話のための理論				講義 (宮坂)
3~4	生命倫理	1 生命倫理とはなにか 2 生命倫理と看護の倫理原則 3 生命倫理と看護職の責務 4 看護実践上の倫理的概念				講義 (宮坂)
5~6	倫理的問題へのアプローチ	1 看護実践における倫理的問題の特徴 2 倫理的問題へのアプローチ法 3 看護学生に必要な倫理的態度 4 医療資源と医療保険制度				講義・演習 (宮坂)
7	先端医療と制度をめぐる生命倫理①移植医療、再生医療	1 移植医療の歴史と現状 2 移植医療をめぐる生命倫理の課題 3 再生医療の歴史と現状 4 再生医療をめぐる生命倫理の課題				講義 (秋山)
8	先端医療と制度をめぐる生命倫理②遺伝子医療	1 性と生命倫理 2 生殖の生命倫理 3 遺伝子医療の歴史と現状 4 遺伝子医療をめぐる生命倫理の課題				講義 (有森)
9~10	終末期医療・看護の倫理	1 死について 2 死と医療 3 告知についての課題 4 終末期の治療方針についての課題				講義・演習 (坂井)
11~14	専門職としての看護活動と倫理	1 社会からみた看護 2 専門職に求められる倫理 3 チームの医療の必要性 4 チーム医療のなかでの協力・協働 5 倫理的意思決定のステップと事例検討				講義・演習 (柏木)
15	試験 (90分)					
使用テキスト	医療倫理学の方法—原則・ナラティブ・手順—第3版		宮坂 道夫 他		医学書院	
	系統看護学講座 別巻 看護倫理		宮坂 道夫 他		医学書院	
参考図書・資料等						
評価方法	筆記試験、授業・グループワークへの取り組み、レポート					

科目名	英語	時期		時間	単位
担当教員	エルダトン・サイモン	1年次	前期	30時間	1単位
科目設定理由	近年、国際交流が進み多くの外国人が来日し、日本国内で暮らす外国人の数も増加傾向である。最近の医療現場でも医学・医療の国際化とともに、国際社会に対応するコミュニケーション手段としての世界の共通語である英語の語学力が求められており、医療従事者の英語力の養成が重要視されてきている。アクティブ・ラーニングを取り組み、英語でコミュニケーションを図り、看護活動に役立つ英語力を高めるためこの当該科目を設定した。				
学習目標	外来や病棟における看護場面での英会話を学び、基礎的な英会話能力を身につける				
授 業 計 画					
回数	項目	内 容			備 考
1	【Lesson 1-A・B】	1 あいさつ、自己紹介 1・2			講義・演習
	【Lesson 2-A・B】	2 看護技術 1・2			
2	【Lesson 3-A・B】	1 症状 1・2			講義・演習
	【Lesson 4-A・B】	2 受付にて、会計			
3	【Lesson 5-A・B】	1 風邪、胃の痛み			講義・演習
	【Lesson 6-A・B】	2 内科—慢性腎不全、内科—関節症			
4	【Lesson 7-A・B】	1 外科—胆石症、外科—虫垂炎			講義・演習
	【Lesson 8-A・B】	2 小児科—喘息、内科—摂食障害			
5	【Lesson 9-A・B】	1 眼科—老人性白内障、耳鼻咽喉科—急性虫垂炎			講義・演習
	【Lesson 10-A・B】	2 皮膚科—アトピー性皮膚炎—泌尿器科—前立腺肥大症			
6	【Lesson 11-A・B】	1 産科—妊娠、放射線科—X線治療			講義・演習
	【Lesson 12-A・B】	2 歯科—虫歯、歯科—歯肉炎			
7	【Lesson 13-A・B】	1 救命救急室—交通事故、救急—心肺蘇生法			講義・演習
	【Lesson 14-A・B】	2 肺がん検査、乳がん検査			
8	中間テスト・まとめ				
9	【Lesson 15-A・B】	1 心臓検査—ホルター心電図、大腸検査			講義・演習
	【Lesson 16-A・B】	2 入院手続き、病室にて			
10	【Lesson 17-A・B】	1 脳卒中、心臓ペースメーカー			講義・演習
	【Lesson 18-A・B】	2 手術の翌朝、術後 3 日			
11	【Lesson 19-A・B】	1 糖尿病、退院指導			講義・演習
	【Lesson 20-A・B】	2 足骨折、内分泌疾患—バセドウ病			
12	【Lesson 21-A・B】	1 陣痛と出産、肝臓の病気			講義・演習
	【Lesson 22-A・B】	2 肺炎、骨粗鬆症			
13	【Lesson 23-A・B】	1 介護認定、在宅ケア—認知症、			講義・演習
	【Lesson 24-A・B】	2 訪問介護—入浴サービス、デイサービス			
14	【Lesson 25-A・B】	1 介護老人保健施設（老健）、介護老人福祉施設（特養）			講義・演習
15	試験（90分）	まとめ			
使用テキスト	看護英会話入門 第3版	植木 武／ドレール・トウン		医学書院	
参考図書・資料等					
評価方法	筆記試験、口答試験、授業中の発表、出席などから総合的に評価する				